

相手を思いやる、 そして自分自身も。



左「(有)勝産業 代表取締役社長 勝連但博さん」
右「多機能型事業所すぺーす 新崎純子さん」

現在の事業所について

—多機能型事業所すぺーすのお仕事は？

新崎 多機能型事業所すぺーす（以下、すぺーす）の親会社である有限会社勝産業は、30年前に障害者が活躍する場が限られる中、小さいながらも障害者雇用をスタートしました。年月がたち、障害者総合支援法をきっかけに、すぺーすが立ち上がりました。す

ぺーすは、衣服の着脱や歯磨きなどの基本的な生活動作の確立や、自立に向けた社会生活の体験などを行う生活介護事業と、就労や生産活動の機会を提供し、就労に必要な力を蓄えた利用者に対して、一般就労に向けた支援を行う就労継続支援B型の事業を行っています。また、勝産業はすぺーすとは別で保護者などが病气やけがなどで介護ができない

場合に入所できる指定短期入所事業も行っています。

—事業所としての悩みは？

新崎 どの事業所も同じだと思いますが、職員の定着率が課題です。福祉の仕事は資格や経験が必要だと考えられていますが、比較的障害福祉でそのようなことはありません。実際、すぺーすの従業員24人のうち、有資格者や経験者は5人程度です。私たちは資格や経験よりも「周りの人のことをどれだけ考えられるか」、「どのような夢を持っているか」など、人との関わり方や仕事に対する姿勢が重要だと考えていますので、人間性の育成に力を入れて職員研修を行い、職員定着率の引き上げを図っています。

障害者の高齢化問題

—障害福祉の課題は？

新崎 65歳を過ぎると障害者も介護保険サービスが提供さ

単ではなく、準備も必要です。それでも利用者が今後幸せで、保護者にも安心してもらうためには、私たち相談員さんやケアマネージャーさんと一緒に考え、一つ一つ行動に移していく必要があると感じています。

いです。しかし、福祉とは相手を思いやる心、そして自分自身を思いやる心ではないでしょうか。私たちは代表の勝連からも「共に生き・共に楽しむ」を求められています。それは利用者のことだけではなく、利用者の家族や周りの人も、そして私たちも楽しみながら一緒に生活することです。私たち福祉サービスを提供する人にも家族がいます。仕事をすることで自身や家族が嫌な思いをすることは、サービスの提供を受ける人も



▲クリスマス会を楽しむ利用者

相手を思いやる、 そして自分自身も

—障害福祉で重要なことは？

新崎 障害福祉もそうですが、福祉というと、介護や医療など、さまざまな単語が並び、つらい、苦しいといった印象の仕事に捉えられることが多



▲11月25日には、利用者も参加して30周年記念式典が行われました。

、今年も開催します！！

働く幸せ★未来につながる
ハッピー-うえるフェア 2023

&

こころの芸術・文化
フェスティバル in 糸満

糸満市では、障害者週間に合わせて、民間事業所と共同で催しを行います。

働く幸せ★未来につながる
ハッピー-うえるフェア 2023

働く障害者が作るお菓子や手工芸品、農産物などを販売、PRするイベントです。

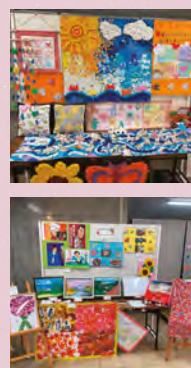
日時 12月6日(水)・7日(木)
10時～14時
場所 糸満市役所1階市民ホール



こころの芸術・文化
フェスティバル in 糸満

障害児・障害者が作成した絵画、工作、工芸品などや活動紹介パネルを展示します。

日時 12月4日(月)～8日(金)
場所 糸満市役所2階
市民ギャラリー



▲花の苗に水やりをする利用者

れ、障害福祉サービスの相談員さんのほかに、介護サービスのケアマネージャーさんなど多くの人が関わるようになります。しかし一方で、障害の種類によっては介護施設の入所が困難なケースがあり、障害のある人たちにとって保護者が亡くなった後の生活は大きな課題です。利用者のことや保護者の意向を一番把握しているのは、日々サービスを提供し、一緒に生活する私たちですので、高齢になった利用者と継続的に関わりを持てる環境を作るためには、簡